

市町村名		宜野座村					
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	阪神タイガース春季キャンプ受入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	観光商工課		事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
						-1-(1)	
事業内容	阪神春季キャンプの受入態勢の強化を図り、キャンプ中はもちろん年間を通して誘客出来る観光資源を開拓していく。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	8,652	7,859	6,881		
		(b)予算現額	6,388	7,154	6,881		
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,264	▲ 705	0		
		(d)前年度繰越額	-	-	-		
		A. 計(b+d)	6,388	7,154	6,881		
	B. 執行済額		6,388	7,093	6,634		
	うち交付金充当額		5,109	5,673	5,306		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率（％）(B/A)		100.0%	99.1%	96.4%		
予算の状況の説明		不用額247千円については、委託料入札残、賃金料残によるものであり、当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）			達成状況			
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・野球場仮設ブルベン、防球ネット、エアアーチ等設置 ・野球場、総合グラウンド黒土搬入	目 標	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入		
	実 績	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 42㎡	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 42㎡	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 42㎡			
達成状況説明	春季キャンプ中、選手が快適に練習ができるよう、ブルベンの整備、防球ネット設置、歓迎エアアーチ設置等の球場内外の整備を行い、選手及び見学者が快適な環境施設を整備することにより、観光資源の向上ができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	・阪神春季キャンプ継続受入 ・オープン戦の開催 ・キャンプ来場者（90,000人）	目 標		来場者 70,000人	来場者 70,000人	春季キャンプ受入 オープン戦の開催 来場者 90,000人	
		実 績		来場者 67,300人	来場者 63,700人	阪神キャンプ開催 オープン戦無し 来場者 63,800人	
		目 標					
		実 績					
進捗状況説明	阪神タイガースの春季キャンプを2月1日～25日まで行い、キャンプ環境、見学者の誘客と安全を図るため、黒土入替え、見学客を守る防球ネット、歓迎のぼりを設置した。 今回のキャンプは、集客の多い練習試合や祝日練習試合が減になっていることや、球団へ要望しているオープン戦の開催ができなかったことが見学者数の目標を下回っている。球団へ本球場でのオープン戦や練習試合を継続して要望していき、また、さらなる誘客を図るため、球団と調整・連携を行い、受入態勢やイベントの充実を行っていく。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	・見学者のさらなる安全対策の強化を図る必要がある。 ・練習試合や紅白試合が雨天中止になると集客に影響が大幅に出る。 ・村野球場でのオープン戦開催を要望しているが、実現ができていない。	・今年度の反省を踏まえ、安全対策を強化する必要がある。 ・阪神球団選手を活用して、野球教室などを行い、誘客効果を生み出す。 ・観光推進協議会、商工会との連携を継続して行い、新たな効果を生み出す。 ・オープン戦開催について、継続して強く要望していく必要がある。
今後の取り組み方針		
・安心して見学できるキャンプ環境施設を強化していく。 ・集客の多いオープン戦、練習試合、紅白戦を増やそう球団へ要望していく。 ・来場者が安全に休めて本村の観光誘客へ結ぶ場所を提供していく。 ・継続して、毎年新たなキャンプ情報の提供や阪神協力会会員確保に向けて取り組む。 ・観光推進協議会及び宜野座村商工会との連携をしながら年間を通した誘客を図り観光振興、産業振興につなげ新たな波及・派生効果を継続して取り組む。		

		<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>6,634</td><td>6,634</td><td>5,306</td><td>1,328</td><td>0</td></tr></table>				総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,634	6,634	5,306	1,328	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費											
6,634	6,634	5,306	1,328	0											
宜野座村 6,634千円	報酬 1,795千円	〔嘱託職員1人 阪神球団受入業務〕													
	賃金 429千円	〔賃金職員 キャンプ期間清掃業務〕													
	需用費 2,056千円	(株)阪神園芸 953千円	〔野球場の黒土購入〕												
		(株)阪神園芸 804千円	〔グラウンドの黒土購入〕												
		消耗品費 299千円	〔インフルエンザ対策消毒液・石灰・のぼり・ベースなど〕												
	委託料 2,354千円	桑江組 2,354千円	〔キャンプ用エアアーチ、ブルベン・テント、防球ネット設置・撤去委託業務〕												

資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。 ・不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1 -	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (7) - イ		
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化		
事業内容	教育・観光振興、人材育成を図るとともに、宜野座村の魅力をアピールし村全体の活性化を図るために、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に、文化イベント事業の開催やお出かけアウトリーチ事業(ホール外の県内外等へ飛び出して、芸術文化の魅力を伝えるイベントを行うこと)、国際交流イベント事業を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a)当初予算額	25,707	12,190	13,000		
		(b)予算現額	28,316	12,529	15,999		
		(c)増減額(b-a)	2,609	339	2,999		
		(d)繰越額	0	0	0		
	B. 執行済額	A. 計(b+d)	28,316	12,529	15,999		
		うち交付金充当額	20,565	9,752	12,799		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100%		
		予算の状況の説明	当初予算成立後、6月補正において、お出かけ公演事業追加分として予算2,999千円を増額した。				
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・芸術文化・伝統芸能公演の開催数(26)	目 標	(4 回)	(2 2 回)	(2 6 回)	()	
		実 績	1 7 回	2 2 回	2 5 回		
	・お出かけ公演実施数(16)	目 標	(1 0 回)	(9 回)	(1 5 回)	()	
		実 績	1 1 回	1 4 回	1 0 回		
	・子ども育成事業数(1)	目 標	(1)	(1)	(1)		
		実 績	1	1	1		
	達成状況説明	(平成26年度事業達成状況) 宜野座村国際交流音楽祭、大人の音楽会、ライブハウスがらまん、GKS(ダンスワークショップ)、お出かけ公演(アウトリーチ)、がらまん沖縄芝居公演、がらまんダンスショー、創作芸能公演、フラコンサートなど子供から大人までを対象とした幅広い事業展開を行ったが、台風の影響により事業が中止されたものもあり、お出かけ公演においても、訪問先の都合や演奏者の都合により開催できないケースもあり、計画よりも開催数が減っている。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度
・芸術文化・伝統芸能公演の集客数 H24年:3940名 H25年:2200名余 H26年:2500名		目 標		3,013	(2,500)	(2,500)	(2,500)
		実 績	3,751	3,915	2,201	5,257	
・お出かけ公演実対象者数 H24年:2565人 H25年:2151人 H26年:2650人		目 標		未設定	(850)	(2,650)	(800)
		実 績	700	2,565	2,151	4,626	
・子ども育成事業人数(30名) (ストリートダンス教室)		目 標		(30)	(30)	(30)	
		実 績	25	25	32	23	
進捗状況説明		・芸術文化・伝統芸能公演数自体は減となったものの各公演の集客数が増えたことと1事業複数回公演があり最終的に目標値を大きく上回った。 ・お出かけ公演も公演数自体は減となったが、規模の大きい訪問先で事業を行うことによって対象者数の大幅な増加となった。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) 地域の人材や伝統を生かした創作プログラムを作った。 台風などのキャンセルなどにより行えないことがあった。 偏りのないよう多様な芸術文化・伝統芸能公演を実施した。 観光客へのアピールもネット広告やホテルへのチラシ配布などで行った。 本事業を観光資源とも捉え、地域に経済波及効果も及ぶよう公演時に観光パンフレットの配布やホームページで地域の情報をリンクして総合的に宜野座村をアピールした。	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) 今後はこのコンテンツをどう継承・再演していくかを検討する必要もある。 無理に予定通り行わず、別の公演によって補填公演を行うようにする。 事業一覧を分析し、未分野の芸術文化事業も行う必要がある。 事業の対象者と費用対効果も考えしっかりアピールできるよう努める。 ホールに来るだけでなく、宜野座にステイすることも踏まえての情報発信を行なう必要がある。
	今後の取り組み方針 今年度は今までに行わなかった分野の事業に取り組み、新たな創作舞台コンテンツも作り上げ、また大きな会場や新たな施設に訪問するなど昨年にはない運営を行ない集客数・対象者数が大幅に増加した。今後はその作り上げたものの継承、まだ未分野の芸術文化の紹介、さらにそれらを元に観光産業ともリンクして人的交流、国際交流を深め地域の文化振興、発展に寄与する方向を検討する。	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費			交付対象 外経費
		交付金 充当額	市町村 負担金	
16,249	15,999	12,799	3,200	250

```

graph LR
    A[宜野座村  
15,999千円] --> B[委託料  
(15,999千円)]
    B --> C[宜野座村文化のまちづくり  
事業実行委員会  
15,999千円]
    D["（ 宜野座村文化のまちづくり  
魅力発見事業に係る委託事業 ）"] -.-> C
    E["（ 交付外対象外経費  
250千円 ）"]
  
```

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	宜野座村着地型観光誘客推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
						-1-(1)	
事業内容	宜野座村の着地型観光を推進するため、地域資源を活用した地域発信の観光事業を展開するとともに、観光商品の事業化に向けた取り組みを推進する。また、地域企業との連携を密にし、地域コーディネーターの強化、PR活動に必要な情報媒体の整備、イベント事業展開等の支援を行う。						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	21,218	25,000			
		(b)予算現額	16,350	25,000			
		(c)増減額(b-a)	▲ 4,868	0			
		(d)前年度繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	16,350	25,000			
	B.執行済額		16,350	25,000			
	うち交付金充当額		13,080	20,000			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	1.観光誘客プロモーション事業 (1)案内所設置 (2)PR活動 (3)観光ノベルティグッズ ファイル/手提げ紙袋/グッズ (4)媒体作成事業 パンフレット/Web/情報誌掲載 (5)観光カレンダー	目 標	(観光誘客プロモーション実施)	(観光誘客プロモーション実施)	()	()	
		実 績	観光誘客プロモーション実施	観光誘客プロモーション実施			
	2.観光プログラム開発実施事業 (1)親子体験ツアー	目 標	(観光プログラム開発実施事業実施)	(観光プログラム開発実施事業実施)	()	()	
		実 績	観光プログラム開発実施事業実施	観光プログラム開発実施事業実施			
	3.観光人材育成事業 (1)先進地研修(長崎県)	目 標	(観光人材育成事業実施)	(観光人材育成事業実施)	()	()	
		実 績	観光人材育成事業実施	観光人材育成事業実施			
	4.イベント事業 (1)第2回沖縄バーガーフェスタ (2)第1回フラワーロードフェスティバル	目 標	(イベント事業実施)	(イベント事業実施)	()	()	
		実 績	イベント事業実施	イベント事業実施			
達成状況説明	観光誘客プロモーション事業では、観光案内所を設置し、観光ノベルティグッズを作成して県内外でのPR活動で配布。WEBや観光情報誌にて情報発信を行い、フォトコンテストを開催して観光資源を発掘し観光カレンダーを作成した。観光プログラム開発事業では、阪神タイガース春季キャンプ中に親子で体験するバックヤードツアーを実施した。観光人材育成事業では、民泊事業や町歩き先進地(長崎県)を視察した。イベント事業では、第2回バーガーフェスタ、第1回フラワーフェスティバルを開催した。各事業とも計画どおり円滑に実施できた。						
H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
	1.観光誘客プロモーション事業 (1)案内所来場者数:1,000名	目 標	(600人)	(1,000人)	()	()	
		実 績	1,200人	2,300人			
	(2)PR活動:ブースPR展(5回)	目 標	(5回)	(5回)	()	()	
		実 績	3回	5回			
	(3)観光ノベルティグッズ ファイルでバッグ(1,000枚)	目 標	()	(1,000枚)	()	()	
		実 績		2,000枚			
	手提げ袋(1,000枚)	目 標	()	(1,000枚)	()	()	
		実 績	-				
	スティック消しゴム(768個)	目 標	()	(768個)	()	()	
		実 績		-			
	タンブラー(60個)	目 標	()	(60個)	()	()	
		実 績		-			
	ふせん・メモセット(100個)	目 標	()	(100個)	()	()	
		実 績		3,000個			
	ピンノックボールペン(100個)	目 標	()	(100個)	()	()	
実 績			-				

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
25,000	25,000	20,000	5,000	0

- ・観光案内所設置
- ・県外観光PR活動
- ・ノベルティーグッズ商品開発
- ・観光プログラム開発事業
- ・観光人材育成事業
- ・イベント事業
- ・観光プロモーション事業

宜野座村
25,000千円

委託料
25,000千円

**宜野座村
観光推進協議会**
25,000千円

	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村を特化した観光を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	リバーパーク整備事業（未来ぎのぞ周辺整備）	沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所 第3章 - 2 - (7) - イ 交流と共創による農山漁村の活性化				
担当部課名	企画課	事業実施 (予定)年度 平成24～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所 - 1 - (1)				
事業内容	平成23年度に作成した「漢那福地川リバーパーク基本計画」を素案として、検討委員会にて計画実施にむけての細部を協議し、漢那福地川周辺の豊かな自然を活かした観光拠点整備を推進する。一昨年はパークゴルフ場を整備し、昨年度は拠点整備用地（無地番地）について測量調査を実施した。本年度は当該地の用途廃止及び村有地化を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	104,952	3,885	2,496		
		(b)予算現額	109,185	4,053	86,088		
		(c)増減額(b-a)	4,233	168	83,592		
		(d)前年度繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	109,185	4,053	86,088		
	B.執行済額		109,185	4,053	86,088		
	うち交付金充当額		87,347	3,242	68,870		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		・当初計画では、リバーパーク整備等検討委員会の設置、開催のみであったが、計画用地（無地番地）の財産取得手続きが進んだ為、計画を変更し国有地の売買について実施した。12月定例議会にて予算増額補正を行った。 ・計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標も達成しており適正であった。					
活動目標（指標）及び達成状況	H26活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・リバーパーク整備等検討委員会の設置、開催（具体的な実施整備について協議） ・無地番地の土地購入（売買契約）	目 標	（パークゴルフ場の整備(18ホ-ル)）	（ ・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議 ）	（ ・検討委員会の開催 ・用地表題登記申請委託 ・国有地購入（売買契約） ）	（ ）	
		実 績	パークゴルフ場の整備(18ホ-ル)	・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議	・用地表題登記申請委託 ・国有地購入（売買契約）		
達成状況説明	道の駅ぎのぞに隣接する川沿いの無地番地用地の土地利用整備であり、計画どおりにこの用地を取得（国有地の売買）することができた。また、リバーパーク整備等検討委員会において、当該用地における観光拠点づくりの具体的整備指針について協議を行った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H26成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	・リバーパーク整備等検討委員会を設置し、漢那福地川周辺と宜野座村の観光振興に向けた施策について取りまとめる。 ・無地番地の村有地化を図る。	目 標	（ ）	（パークゴルフ場の整備(18ホ-ル)）	（ ・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議 ）	・検討委員会を開催し整備方針をまとめる ・用地表題登記申請委託 ・国有地購入する	（ H33 ）
		実 績		パークゴルフ場の整備(18ホ-ル)	・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議	・検討委員会の開催(3回)整備方針を取りまとめた。 ・用地表題登記完了。 ・国有地を購入（村有地化を図った。）	
	進捗状況説明	道の駅ぎのぞに隣接する川沿いの無地番地用地の土地利用整備であり、計画どおりにこの用地を取得（国有地の売買）することができた。当該地の観光拠点整備指針策定のため、先進地の推進体制、具体的な取り組み、管理運営体制、ビジョンの内容について学び参考とするため、先進地視察を行った。また、リバーパーク整備等検討委員会を開催し当該用地における観光拠点づくりの具体的整備指針について協議を行い、観光拠点施設及び周辺整備（公園、駐車場等）の規模や施設機能を決定した。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化) ・無地番地 (国有地) の財産取得 (売買契約) に日数がかかり、年度末となった。 ・国 (沖縄県総合事務局財務部管財統括課) の普通財産売払額が予算計上内であった。	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点) ・無地番地 (国有地) の財産取得に向けて、県 (漁港漁場課) 及び沖縄県総合事務局財務部管財統括課など関係機関との調整に時間 (日数) がかかる事から年度はじめから綿密な調整が必要である。
	今後の取り組み方針 ・財産取得した当該用地について観光拠点整備を推進する。(建築設計、観光センター、ゲートゾーンの土木設計、工事) ・リバーパーク整備等検討委員会において、リバーサイドゾーンの整備指針の検討。	

市町村名		宜野座村							
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】									
事業番号・事業名		1 - スポーツ施設機能高度化事業(総合体育館機能高度化事業)		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第3章 - 2 - (1) - イ			
担当部課名		教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度		平成25～26年度		「スポーツアイランド沖縄」の形成	
						沖縄振興基本方針 該当箇所		- 1 - (1)	
事業内容		観光振興の観点からスポーツイベントの誘致を推進する為、又、青少年や競技者の技術向上に寄与し幅広い年齢層々々に対して健康増進及び地域のスポーツ振興に貢献する為施設の機能強化を図る。							
実施方法		■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他（工事請負契約）							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	28年度	
		予算の状況	(a)当初予算額	109,769	0	71,226			
			(b)予算現額	134,595	0	129,493			
			(c)増減額(b-a)	24,826	0	58,267			
			(d)繰越額	-	85,180	0			
			A.計(b+d)	134,595	85,180	129,493			
		B.執行済額		49,415	84,538	129,493			
		うち交付金充当額		39,532	67,630	103,594			
		次年度繰越額		85,180	0	0			
		執行率(%) (B/A)		36.7%	99.2%	100%			
予算の状況の説明		事業実施当初、平成25年から平成27年の3年計画で事業完了を予定していたが、施設利用者の負担軽減の為、計画を1年短縮し予算を増額(平成27年度実施予定の事業費分)させ、平成26年度において全事業を完了している。							
活動目標(指標)及び達成状況		H26活動目標(指標)		達成状況					
				25年度	26年度	27年度	28年度		
		目標	設計 ・屋根改修工事 ・床改修工事 ・玄関サッシュー取替工事 ・照明取替工事	・アリーナ床全面張替え ・アリーナ床下換気取付 ・サッシュー部取替 ・消防設備取替 ・内装工事(床シート張り・内壁補修及び塗装) ・内部照明取替 ・身障者用トイレ補修 ・シャワー室器具取替 ・木建具取替 ・玄関回り塗装及びタイル張替 ・ピロティタイル張替 ・キュービクル改修工事	()	()			
		実績	・屋根改修工事 ・玄関サッシュー取替工事 ・サッシュー防水工事 ・照明取替工事 ・外壁改修工事	・アリーナ床全面張替え ・アリーナ床下換気取付 ・サッシュー部取替 ・消防設備取替 ・内装工事(床シート張り・内壁補修及び塗装) ・内部照明取替 ・身障者用トイレ補修 ・シャワー室器具取替 ・木建具取替 ・玄関回り塗装及びタイル張替 ・ピロティタイル張替					
達成状況説明		各種工事について、アリーナ床全面張替え:床材の経年劣化によるささくれや、ひび割れ等を改善することができた。アリーナ床下換気取付:床下の湿気を除去することができた。サッシュー部取替:搬入口の有効幅の拡張や、耐風漏水対策、段差解消等の改善ができた。消防設備取替:老朽化等により修繕が多かった消防設備を改修することができた。内装工事:床シートの剥がれの改善、内壁補修ひび割れ補修、天井の剥がれの改善ができた。内部照明取替:暗部の照明設置や照明のLED化による省エネ化ができた。身障者用トイレ補修:老朽化した器具の取替及び多目的トイレとして使用できるように改修した。シャワー室器具取替:給湯設備の設置及び仕切壁の設置等利用環境を改善することができた。木建具取替:建具破損の改善や木製棚を増設することができた。シャワー室器具取替:利用しやすい環境や利便性を向上することができた。木建具取替:木製棚の増設により利用者増に対応することができた。玄関回り塗装及びタイル張替:身障者や利用者の安全性を確保することができた。ピロティタイル張替:身障者や利用者の安全性を確保することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況		H26成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)	
		地域のスポーツ振興に資するため平成26年度において左記活動目標を実施し、機能強化を完了する。		目標	()	(100%)	(100%)	()	()
		実績			100%	100%			
		進捗状況説明	目標100%に対し実績100%(工事出来高)で事業を完了することができた。また、各種工事の成果について、アリーナ床全面張替え:各種競技を安全に実施することができた。アリーナ床下換気取付:湿気の除去により床面のすべりや腐食等の進行を改善することができた。サッシュー部取替:漏水を防ぐことができ、またバリアフリーに対応することができた。消防設備取替:緊急時の利用者の安全性を確保することができた。内装工事:踏き転倒防止や、天井材の落下防止ができた。内部照明取替:暗部の危険性の除去や電力量の削減ができた。身障者用トイレ補修:身障者や子連れ方等にとって利用しやすい環境を作ることができた。シャワー室器具取替:利用しやすい環境や利便性を向上することができた。木建具取替:木製棚の増設により利用者増に対応することができた。玄関回り塗装及びタイル張替:身障者や利用者の安全性を確保することができた。ピロティタイル張替:身障者や利用者の安全性を確保することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村では、宜野座村野球場の整備や宜野座ドーム整備等、スポーツ施設の整備に力を入れており、その効果もあり、阪神球団の春季キャンプ誘致やスポーツ合宿地として県内外からの、利用者が増加してきている状況にある。 本体育館は、供用開始から29年が経過し、施設の老朽化や各種競技の新ルールへの対応、施設の環境や衛生設備の改善等、利用者に支障をきたしたことから、公式戦の会場やスポーツ合宿の受入れ先の対象施設から外されることがあった為、施設の機能強化を図る必要があった。上記課題に対応する為、平成25年度より機能高度化事業を実施しているが、施設利用者より追加の要望(施設のバリアフリー化・多目的トイレの充実・シャワー室の改善・外構整備・照明器具のLED化等)が出ている為、平成26年度事業において対処する必要がある。	平成25年度工事については、基本的に外部足場の関連のある工種を先行して事業を行っている。平成25年度(繰越)事業完了後、一時施設を開放しており、その時に利用者から追加要望が複数出ており、追加設計として今年度の事業に反映させている。平成26年度については、当初内装関係をメインに事業を実施し、追加設計として、施設のバリアフリー化・多目的トイレの充実・シャワー室の改善・外構整備・照明器具のLED化等を検討し事業内容を変更している。
今後の取り組み方針		
今後の取り組みとして、本年度ですべての事業が完了する為、各種スポーツイベントの開催、スポーツ合宿の誘致、イベント会場等で利用し、観光及び産業振興等の関係課及び関係機関と連携し利用者数の向上を図る。また、年間を通して、利用者数の推移を集計し、各イベントの効果を検証・改善し、年間20,000人を目指していく。観光関連の関係機関と連携し、県内外から観光を含めたスポーツ合宿を誘致し、スポーツを通して宜野座村を見て・食べて・体験することで、本村の良さを発信できればと考えている。また村内の利用者においても本村体育協会と連携しスポーツ強化を支援していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																			
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>129,493</td><td>129,493</td><td>103,594</td><td>25,899</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	129,493	129,493	103,594	25,899	0					
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費															
129,493	129,493	103,594	25,899	0															
<table> <tr> <td rowspan="4">宜野座村 129,493千円</td><td rowspan="2">委託料 4,173千円</td><td>㈱国吉設計 1,052千円</td><td colspan="2">機能高度化事業に係る設計委託費</td></tr> <tr> <td>㈱国吉設計 3,121千円</td><td colspan="2">機能高度化事業に係る工事設計監理委託費</td></tr> <tr> <td rowspan="2">工事請負費 125,320千円</td><td>津嘉山電水社 18,190千円</td><td colspan="2">機能高度化事業に係る工事費</td></tr> <tr> <td>㈱盛建設 107,130千円</td><td colspan="2">機能高度化事業に係る工事費</td></tr> </table>					宜野座村 129,493千円	委託料 4,173千円	㈱国吉設計 1,052千円	機能高度化事業に係る設計委託費		㈱国吉設計 3,121千円	機能高度化事業に係る工事設計監理委託費		工事請負費 125,320千円	津嘉山電水社 18,190千円	機能高度化事業に係る工事費		㈱盛建設 107,130千円	機能高度化事業に係る工事費	
宜野座村 129,493千円	委託料 4,173千円	㈱国吉設計 1,052千円	機能高度化事業に係る設計委託費																
		㈱国吉設計 3,121千円	機能高度化事業に係る工事設計監理委託費																
	工事請負費 125,320千円	津嘉山電水社 18,190千円	機能高度化事業に係る工事費																
		㈱盛建設 107,130千円	機能高度化事業に係る工事費																
資金 使途の 流れ、 点検 評価 項目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明																
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先の選定方法は、指名競争入札で選定している為、妥当と考えている。																
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、実施設計において積算した規模で発注しており、額に関する積算根拠ある為、適正であると考えている。																
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途は設計委託業務及び工事請負費のみに使用しており目的に即した利用となっていると考えている。																
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。																	

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	小学校学力向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	3 - 5 - (3)	
担当部課名	教育課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	
事業内容	児童一人一人へ確かな学力と生きる力を育成するとともにTT(チームティーチング)による指導で判断力、想像力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図るため、小学校に学習支援員を配置する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	11,290	7,680	7,680		
		(b)予算現額	9,652	7,680	7,012		
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,638	0	▲ 668		
		(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)		9,652	7,680	7,012		
	B. 執行済額		9,652	7,680	7,012		
	うち交付金充当額		7,721	6,144	5,609		
	次年度繰越額				0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100%		
予算の状況の説明		学習支援員を配置し、計画通り執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	小学校学習支援員配置数:4人	目 標	(8)	(4)	(4)	()	
		実 績	8	4	4		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成 状況 説明	本年度目標の小学校学習支援員4名を配置し、担当教員との連携による授業を行うことができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	支援児童数:449人	目 標	()	(8)	(426)	(449)	(下記記載)
		実 績		8	430	446	
	平成26年4月22日に実施される、全国学力学習状況調査における平均正答率目標 国語A B:60.0%(平成25年度結果:58.2%) 算数A B:65.5%(平成25年度結果:65.3%)	目 標	()	()	()	(国語AB 60.0% 算数AB 65.5%)	()
		実 績				(国語AB 62.6% 算数AB 66.1%)	
	進 捗 状 況 説 明	小学校に学習支援員を配置し、児童一人ひとりへ確かな学力を身につけさせ、生きる力を育成するとともにTT(チームティーチング)による指導で判断力、想像力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図る。 実績が下回っているのは、転向等により児童数に変更があったため。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本年度は学習支援員を4名配置し、担当教員との連携による授業を行うことにより446名の児童の支援を行うことができ、全体として下記のとおり全国学力学習調査平均正答率の数値により向上がみられる。 国語AB H25(58.61%) → H26(62.05%) 算数AB H25(65.20%) → H26(66.10%)	学習支援員を下位層の児童に重点を置いて設置し、支援することにより、基礎・基本の定着を図るとともに全体的なレベルアップに努める。また、次年度以降は全国学力状況調査平均正答率の単年度目標を設定し取り組む。 H27 国語AB (63.0%) H27 算数AB (66.5%)
今後の取り組み方針		
学習支援員配置による学力向上の効果については、全国学力学習状況調査平均正答率の単年度目標数値を設定し、各年度の数値を比較検証し、事業の継続や見直し等についても検討し、更なる学力向上を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7,012</td><td>7,012</td><td>5,609</td><td>1,403</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 宜野座村 7,012千円 → 報酬 7,012千円 → 学習支援員(4人) 7,012千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,012	7,012	5,609	1,403	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,012	7,012	5,609	1,403	0										
資金の流 点、検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・学習支援員の任用は、公募したのち面接を実施し決定しているため、適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・学習支援員配置の予算は、宜野座村学習支援員の報酬額により計上されている。支援員の配置人数についても、学校等のヒヤリングにより決定しており、適正であった。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・資金の支給については、村の非常勤嘱託職員取扱要綱に基づき支給しているため適正であると考えている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	中学校学力向上対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3 - 5 - (3) - ア	
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	
- 3							
事業内容	中学校に学習支援員(習熟度別対応支援員)を配置し生徒一人一人へ確かな学力を身につけさせ、生きる力を育成するとともにTT(チームティーチング)による指導で判断力、思考力、想像力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図る。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,120	7,200	7,200		
		(b)予算現額	5,111	7,200	6,807		
		(c)増減額(b-a)	▲ 9	0	▲ 393		
		(d)繰越額	-				
	A. 計(b+d)		5,111	7,200	6,807		
	B. 執行済額		5,111	7,200	6,807		
	うち交付金充当額		4,089	5,760	5,445		
	次年度繰越額				0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100%		
予算の状況の説明		学習支援員を配置し、計画通り執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	中学校学習支援員配置数:3人	目 標	(4)	(3)	(3)	()	
		実 績	4	3	3		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	本年度目標の中学校学習支援員3名を配置し、担当教員との連携による授業を行うことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	支援生徒数:194人	目 標	()	(4)	(191)	(194)	(下記記載)
		実 績		4	193	196	
	平成26年4月22日に実施される度全国学力学習状況調査における平均正答率目標 国語A B:60.0%(平成25年度結果:57.9%) 算数A B:41.3%(平成25年度結果:36.3%)	目 標	()	()	()	(国語A B 60.0% 算数A B 41.3%)	()
		実 績				国語A B 53.6% 算数A B 45.6%	
	進捗状況説明	中学校に学習支援員を配置し、生徒一人ひとりに確かな学力を身につけさせ、生きる力を育成するとともにTT(チームティーチング)による指導で判断力、想像力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本年度は学習支援員を3名配置し、担当教員との連携による授業を行うことにより196名の生徒の支援を行うことができた。国語ABは若干下がったものの数学ABは下記のとおり全国学力学習調査平均正答率の数値により向上はみられる。 国語AB H25(57.90%) → H26(53.55%) 数学AB H25(36.30%) → H26(45.55%)	学習支援員を下位層の生徒に重点を置いて設置し、支援することにより、基礎・基本の定着を図るとともに全体的なレベルアップに努める。また、次年度以降は全国学力状況調査平均正答率の単年度目標を設定し取り組む。 H27 国語AB (60.5%) H27 算数AB (45.6%)
今後の取り組み方針		
学習支援員配置による学力向上の効果については、全国学力学習状況調査平均正答率の単年度目標数値を設定し、各年度の数値を比較検証し、事業の継続や見直し等についても検討し、更なる学力向上を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,807</td><td>6,807</td><td>5,445</td><td>1,362</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 宜野座村 6,807千円 → 報酬 6,807千円 → 学習支援員 6,807千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,807	6,807	5,445	1,362	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,807	6,807	5,445	1,362	0										
資金の流 点、検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・学習支援員の任用は、公募したのち面接を実施し決定しているため、適正である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・学習支援員配置の予算は、宜野座村学習支援員の報酬額により計上されている。支援員の配置人数についても、学校等のヒヤリングにより決定しており、適正であった。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・資金の支給については、村の非常勤嘱託職員取扱要綱に基づき支給しているため適正であると考えている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	幼稚園預かり保育事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3 - 5 - (3) - ア	
担当部課名	教育課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 - 3	
事業内容	幼稚園において、預かり保育を実施し、親子が健やかで安心して日常生活が送れるような支援を充実させていく。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,975	9,200	9,200		
		(b)予算現額	4,471	7,288	8,331		
		(c)増減額(b-a)	▲ 3,504	▲ 1,912	▲ 869		
		(d)繰越額	0	0			
	A. 計(b+d)		4,471	7,288	8,331		
	B. 執行済額		4,471	7,288	8,331		
	うち交付金充当額		3,576	5,830	6,664		
	次年度繰越額				0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100%		
予算の状況の説明		計画通り執行できた					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	預かり保育員配置数:5人	目 標	(4 名)	(4 名)	(5 名)	()	
		実 績	4 名	4 名	5 名		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	本年度目標の預かり保育担当を5名配置し、預かり保育を実施し、親子が健やかで安心して日常生活を送れるよう支援した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	預かり保育希望園児の受入率:100% (預かり保育受け入れ可能園児数:60人)	目 標	()	(4)	(51)	(100% 60)	(下記記載)
		実 績		4	72	110 66	
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	本年度は預かり保育員5名を配置し、村立3幼稚園において、目標の預かり保育受入児童数を上回る66名の園児の預かり保育を実施した。乳幼児の増加により、今後は預かり保育受入児童数の増加が見込まれる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本年度は、預かり保育担当5名を配置し、村立3幼稚園において園児66名の預かり保育を実施した。しかし、今後は園児数の推移及び父兄のニーズ等把握が必要であり、急な受入にも対応できるよう体制を整える必要がある。	今後は、父母のニーズ等を把握し、保育時間、配置人数等検証を行う。
今後の取り組み方針		
預かり保育に対する利用者等の意見を反映させるよう、保育時間、配置人数等検証を行い、事業の見直しを検討する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,331</td><td>8,331</td><td>6,664</td><td>1,667</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,331	8,331	6,664	1,667	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,331	8,331	6,664	1,667	0										
宜野座村 8,331千円 → 報酬 8,331千円 → 学習支援員(5人) 8,331千円														
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・預かり保育の配置は、3幼稚園で最少必要人数5名の配置で適正な規模となっている。 ・予算規模についても、ほぼ見込みどりの執行となり適正であった。 ・費目・用途については事業内容を達成するために必要なものであり、適切に処理されたと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	学校 I C T 機器整備事業			沖縄 2 1 世紀ビジョン 基本計画該当箇所	3 - 2 - (2) - イ	
担当部課名	教育課	事業実施 (予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実	
事業内容	村内小中学校の I C T 機器の整備拡充及びその活用により、児童生徒の基礎学力の向上充実を図る。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額		14,809	3,985		
		(b)予算現額		13,440	3,769		
		(c)増減額(b-a)		▲ 1,369	▲ 216		
		(d)繰越額		0			
		A. 計(b+d)		13,440	3,769		
	B. 執行済額			13,440	3,769		
	うち交付金充当額			10,752	3,015		
	次年度繰越額				0		
	執行率(%) (B/A)			100.0%	100%		
予算の状況の説明		計画通り執行できた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	タブレットPC購入設置:29台 タブレット収納保管庫購入設置:1台	目 標	()	(100%)	(29(1))	()	
		実 績		100%	25(1)		
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	本年度目標の機器等すべてを購入設置し、その活用により、児童生徒の基礎学力向上充実を図った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	タブレットPC購入設置:29台 タブレット収納保管庫購入設置:1台	目 標	()	()	(100%)	(29(1))	(下記記載)
		実 績			100%	25(1)	
	タブレットを整備することにより、わかりやすい授業を行い児童生徒の学力向上につなげる。	目 標	()	()	()	タブレットを使用することにより漢字の読書きや基礎的な計算が早く正確にできるようになる。 目標:漢字の読書き 90% 計算90%	()
		実 績				漢字の読書きができる90% 計算が正しくできる。96%	
	進捗状況説明	本年度目標の機器等すべてを購入設置し、その活用により児童生徒の基礎学力の向上充実を図った。今後は、機器を活用及び周辺機器の整備を進め、わかりやすい授業を実践することにより学力の向上を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ICT機器を効果的に活用し、児童生徒の学力向上を図るため、わかりやすい授業の工夫等、教職員の研修等を検討する。	村配置のIT指導員を活用し、教材の活用方法等教職員の研修等を実施し、わかりやすい授業を行うことにより、児童生徒の学力向上を図る。また、今回整備した機器と関連した必要な機器の検討を行い整備を進める。
今後の取り組み方針		
ICT機器を活用し、わかりやすい授業により児童生徒の学力向上を図るため、機器や教材の活用方法について教職員の研修等を実施する。また、必要機器について検討を行い整備を進める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>3,769</td><td>3,769</td><td>3,015</td><td>754</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	3,769	3,769	3,015	754	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
3,769	3,769	3,015	754	0										
宜野座村 3,769千円 → 備品購入 3,769千円 → コンピューターネットワーク沖縄 3,769千円 タブレットPC購入設置:25台 タブレット収納保管庫購入設置:1														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 契約は指名競争入札により行っており妥当であった。 ○ 数量についても既存の機器等を調査し、必要最小限にとどめた。 ○ デジタル教科書、デジタルドリル等利用した授業に活用しており、事業の目的に即し適正であると考ええる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	有機の里宜野座村確立事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (7)	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興 - 1 - (6)	
事業内容	エコビレッジ構想を推進するため、専門技術員による栽培指導を実施し、エコ農産物の有利販売を行う。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,802	11,754	23,842		
		(b)予算現額	5,406	12,974	11,652		
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,396	1,220	▲ 12,190		
		(d)前年度繰越額	-	-	-		
		A.計(b+d)	5,406	12,974	11,652		
	B.執行済額		5,406	12,974	11,519		
	うち交付金充当額		4,324	10,379	9,215		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	98.9%		
予算の状況の説明		当初計画した事業内容を計画変更し、全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて、適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (27年度)
	推進協議会の開催:6回	目標	()	()	(協議会:部会6回)	(協議会:部会6回)	()
		実績			協議会:部会6回	協議会:部会6回	
	アドバイザーによるアドバイス:5回	目標	()	()		(5回)	()
		実績				1回	
	農業技術営農指導員の配置:1人	目標	(1名)	(1名)	(指導員1名)	(指導員1名)	()
		実績			指導員1名	指導員1名	
	土壌分析・肥料設計・エコファーマー認定指導員の配置:1人	目標	(1名)	(1名)	(指導員1名)	(指導員1名)	()
		実績			指導員1名	指導員1名	
販売戦略担当の配置:1人	目標	()		(指導員1名)	(指導員1名)	()	
	実績			指導員1名	指導員1名		
エコ販売袋、シール等の作成:20セット	目標	()	()		(20セット)	()	
	実績				8セット		
達成状況説明	農業技術員による有機農法の栽培指導を行った。エコファーマーの農産物を有利販売するため、認証マークを作成し、量販店等との検討・調整を図った。農産物の安定供給及び安定生産並びに品質の向上に繋がる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	宜野座村エコビレッジ推進協議会で、アドバイスを受けた農家数や農業技術営農指導体制・エコファーマー認定数・エコ農産物販売等の内容について報告し検討する。	目標	()	(1回)	(1回)	(1回)	()
		実績			1回	1回	1回
	アドバイスを受けた農家数:10農家	目標	()	()	()	(10農家)	()
		実績					10農家
	農業技術営農指導:5回実施	目標	()	()	()	(5回)	()
		実績					326回
	エコファーマーの認定数:2名	目標	()	()	()	(2名)	()
		実績					8名
	エコ農産物の有利販売量:H23 0トン→H26 80トン	目標	()	()	()	(80トン)	()
実績						62トン	
進捗状況説明	専門指導員のアドバイスにより、8名がエコファーマー認証を取得、2名が再認定を受けた。エコファーマー認定農産物の生産安定・生産拡大を図る為、農産物の選定等の農業技術営農指導を326回行ったが平成26年度は62tの生産量となった。協議会・部会を開催し、状況報告等を行った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村は、平成22年3月、「有機の里宜野座村」を宣言し、安心・安全なエコ農産物の生産・販売に取り組んだ。平成24年度、平成25年度、平成26年度とエコファーマー認定者が増加した。「安心・安全な農産物づくり」の技術向上に向け、土作りや土壌分析、各作物の営農指導、エコファーマー認証取得に向けての技術指導、販売先の拡大等を実施し、農産物の生産量は増えてきたが、今後とも農産物の安定生産及び生産量の拡大が課題となっている。	農業技術指導員の配置により、宜野座村独自の生産技術の確立のため、継続して農家への指導・助言を行うとともに、エコファーマー認証取得者の増加及び農産物安定・生産量の拡大に向けた技術指導を行う。更には、エコファーマー認証者が生産した農産物を、販売戦略担当職員による、新たな販売ルートの確保に取り組み、販売量の増加に繋げ農家所得向上を図る。
今後の取り組み方針		
安定した農産物の生産を図るため、施設の修繕並びに災害に強い施設の改善を図るとともに、病虫害及び台風等災害対策を徹底し、農業及び化学肥料に頼らない農業を確立していく。又、農産物品目、栽培技術等の調査研究を行い、本村農業への普及推進を図っていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)																											
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>11,519</td><td>11,519</td><td>9,215</td><td>2,304</td><td></td></tr></table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	11,519	11,519	9,215	2,304														
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費																							
11,519	11,519	9,215	2,304																								
<table><tr><td rowspan="6">宜野座村 11,519 千円</td><td>委員報酬 83 千円</td><td>「有機の里宜野座村」推進協議会委員 83 千円</td><td colspan="2">「有機の里宜野座村」推進協議会 会議時委員報酬 5,500円×15人</td></tr><tr><td rowspan="2">嘱託職員報酬 11,160千円</td><td>農業栽培指導技術員 7,440 千円</td><td colspan="2">農業栽培指導技術員報酬 3,720,000円×2人</td></tr><tr><td>販売戦略推進員 3,720 千円</td><td colspan="2">販売戦略担当報酬 3,720,000円×1人</td></tr><tr><td>報償費 20千円</td><td>農業経営アドバイザー 20 千円</td><td colspan="2">農業経営アドバイザー報償 20,000円×1人</td></tr><tr><td rowspan="2">需用費 256千円</td><td>需用費(消耗品) 18 千円</td><td colspan="2"></td></tr><tr><td>東海印刷・福岡パッケージ(株) 238 千円</td><td colspan="2">エコ農産物販売袋・シール購入</td></tr></table>					宜野座村 11,519 千円	委員報酬 83 千円	「有機の里宜野座村」推進協議会委員 83 千円	「有機の里宜野座村」推進協議会 会議時委員報酬 5,500円×15人		嘱託職員報酬 11,160千円	農業栽培指導技術員 7,440 千円	農業栽培指導技術員報酬 3,720,000円×2人		販売戦略推進員 3,720 千円	販売戦略担当報酬 3,720,000円×1人		報償費 20千円	農業経営アドバイザー 20 千円	農業経営アドバイザー報償 20,000円×1人		需用費 256千円	需用費(消耗品) 18 千円			東海印刷・福岡パッケージ(株) 238 千円	エコ農産物販売袋・シール購入	
宜野座村 11,519 千円	委員報酬 83 千円	「有機の里宜野座村」推進協議会委員 83 千円	「有機の里宜野座村」推進協議会 会議時委員報酬 5,500円×15人																								
	嘱託職員報酬 11,160千円	農業栽培指導技術員 7,440 千円	農業栽培指導技術員報酬 3,720,000円×2人																								
		販売戦略推進員 3,720 千円	販売戦略担当報酬 3,720,000円×1人																								
	報償費 20千円	農業経営アドバイザー 20 千円	農業経営アドバイザー報償 20,000円×1人																								
	需用費 256千円	需用費(消耗品) 18 千円																									
		東海印刷・福岡パッケージ(株) 238 千円	エコ農産物販売袋・シール購入																								
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明																							
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○ ロゴマークシール製作については見積を徴取し印刷発注したので妥当であったと考える。 ○ 人件費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき実施したので妥当であると考え。 ○ 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。																							
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。																									
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。																									
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。																									

市町村名	宜野座村						
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	宜野座村エコビレッジ推進事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (7)		
担当部課名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	亜熱帯性気候等を生かした農林 水産業の振興 - 1 - (6)		
事業内容	エコビレッジ構想を行うため、宜野座村エコビレッジ推進協議会の開催やアドバイザーの設置、滞在型・日帰り型市民農園の開設の検討を行う。						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	399	229			
		(b) 予算現額	671	49			
		(c) 増減額 (b-a)	272	▲ 180			
		(d) 前年度繰越額	-	-			
	A. 計 (b+d)		671	49			
	B. 執行済額		671	22			
	うち交付金充当額		537	17			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	44.9%			
予算の状況の説明		当初計画した事業内容は推進協議会3回計画で1回開催。不用額については、最終補正で減額したが、欠席者が出たため執行率が下がった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H25活動目標 (指標)		達成状況				
			基準値 (23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (27年度)
	宜野座村エコビレッジ推進協議会の開催:3回	目 標	()	(3回)	(3回)	()	()
		実 績		2回	1回		
	農業経営アドバイザーの配置:1人	目 標	()	()	(1人)	()	()
		実 績			0		
達成状況説明	エコビレッジ構想をするため、宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し、滞在型・日帰り型市民農園開設に向けての検討を行った。協議会開催は3回の計画であったが、1回の開催でとりまとめを行った。今後、宜野座村にはどのような施設が必要か、関係課・関係団体との調整をしながら継続審議が必要となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H25成果目標 (指標)		基準値 (23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (27年度)
	農業体験や滞在型市民農園を中心とした宜野座村エコビレッジ構想について、協議会において取りまとめる。	目 標	()	(3回)	(1回)	()	()
		実 績		2回	1回		
	進捗状況説明	エコビレッジ構想をするため、宜野座村エコビレッジ推進協議会を1回開催し、滞在型・日帰り型市民農園開設が本村において実施可能か検討会議を行ったが、次年度、関係課・関係団体等と継続審議し内容を取りまとめることとなった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	エコビレッジ構想を行うため、滞在型・日帰り型市民農園(クライガルデン)の開設について、宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し、検討を行ったが、沖縄県で施設利用者がいるか、又、他の施設計画が良いのではないかと等意見がでた。	エコビレッジ構想を行うため、滞在型・日帰り型市民農園(クライガルデン)の開設について、宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し、検討を行ったが、沖縄県で施設利用者がいるか、又、他の施設計画が良いのではないかと等意見あり、滞在型・日帰り型市民農園の開設について結論にはいたらず、本村において、どのような施設が本村で求められているか、今後も県内の先進地等を視察し、関係団体等を交え継続審議する。
今後の取り組み方針		
宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し、本島内で実施している施設等の調査を行い、開設可能か図っていくとともに、本村が必要とする施設について、関係団体等を交じれ、今後とも継続審議する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
		<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>22</td><td>22</td><td>17</td><td>5</td><td></td></tr> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	22	22	17	5			
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
22	22	17	5											
宜野座村 22 千円 → 委員報酬 22 千円 → 宜野座村エコビレッジ推進協議会委員 22 千円 4名 宜野座村エコビレッジ推進協議会委員 5,500 × 4 名 = 22千円														
資金使途の流れ、費目・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 人件費の費用については宜野座村報酬月額表に基づき実施したので妥当であると考える。 ○ 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	宜野座村							
平成 2 6 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4 -	サーバーファーム設備機能高度化事業		沖縄 2 1 世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア			
担当部課名	企画課	事業実施 (予定)年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	情報通信関連産業の立地促進			
事業内容	宜野座サーバーファームについては現在、施設機能の旧式化が課題となっている。そのため昨年度実施した基本調査を踏まえ、今年度は空調設備の増設や付帯工事を行うことでバックアップデータセンターとしての施設機能の高度化を図り入居企業の誘致及び支援に寄与する。							
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	52,290	70,000				
		(b)予算現額	15,960	78,192				
		(c)増減額(b-a)	▲ 36,330	8,192				
		(d)繰越額	0	0				
		A. 計(b+d)	15,960	78,192				
	B. 執行済額		15,960	76,518				
	うち交付金充当額		12,768	61,214				
	次年度繰越額		0	0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.9%				
予算の状況の説明		当初計画においては、空調設備3台の増設であったが、計画の変更で増設数が2台増の合計5台となり、金額の増となったため、予算額が変更となった。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況					
			25年度	26年度	27年度	28年度		
	第一期工事として下記内容を実施する。 空調設備(5台)の増設 付帯工事(分電盤、排水工事)	目 標	(機能高度化計画策定)	(空調設備(5台)の増設 付帯工事(分電盤、排水工事))	()	()		
		実 績	機能高度化計画策定	空調設備(5台)の増設 付帯工事(分電盤、排水工事)				
		目 標	()	()	()	()		
		実 績						
	達成状況説明	本事業にて、空調設備 5 台の増設を行い、データセンターの機能高度化が図れた。						
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値 (年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)
・空調設備の増強による、ラック数増加に向けた入居企業の営業展開支援基盤の整備 ・データセンター機能の高度化と合わせた企業誘致活動への反映		目 標	()	()	(空調設備の増強 入居企業の営業展開支援 基盤の整備 企業誘致活動への反映)	()	()	
		実 績			完了 空調設備のみ完了 反映(今回の空調増強により、施設の機能高度化が成された)			
		目 標	()	()	()	()	()	
		実 績						
進捗状況説明		平成26年度事業において、空調設備の増強を実施したが、金額・台数等の変更申請に時間を要し、工期が3月末となつてしまい、目標のラック数増加には届いていないが、次年度のガス消火設備整備事業の実施と共にラック数増加・企業誘致活動を実施していく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) 本事業により策定された計画案では、総合的な設備機能の高度化について、人居企業の意見や市場動向を踏まえて策定することが出来た。 平成14年度当時最先端と称された設備も、11年目を向かえ旧式化している状況を外部の情報を踏まえて客観的に判断することが出来たものの、全体計画では20億円規模の機能高度化事業となる為、村の財政的な都合も考慮し、実情に即した機能整備、強化等について効果的に実施していく必要がある。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) 基本調査を踏まえ、電気設備関連、機械設備関連を重点的に調査しているが、施設設備の国際的な基準(ティア)に基づきながら、現状旧式化している設備の高度化について、適切に事業導入が出来るよう計画的に進める必要がある。 本年度においては空調設備の増設、次年度以降も改善ポイントである消火設備、電源(UPS)設備の機能高度化を重点的に実施することで、人居企業の事業支援に繋げていく。
	今後の取り組み方針 今回空調設備の増強を実施し、今後計画に基づきながら機能高度化の選定を適切に進めるために、消火設備の機能高度化、電源設備の強化について優先的に計画を進めるものとし、平成27年度はサーバー機器に対する室内環境の機能高度化を図る為、ガス消火設備の整備を先行して実施する。	

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
76,518	76,518	61,214	15,304	0

```

      graph LR
        A[宜野座村  
76,518千円] --> B[委託費  
4,158千円]
        A --> C[工事請負費  
72,360千円]
        B --> D["(有)環境空間  
3,208千円  
950千円"]
        C --> E["(有)丸安建設  
72,360千円"]
        D --- F["宜野座村サーバーファーム  
機能高度化設計業務  
宜野座村サーバーファーム機能高度化  
整備工事(空調設備)監理委託業務"]
        E --- G["宜野座村サーバーファーム  
機能高度化整備(空調設備)工事  
有限会社 丸安建設"]
      
```

資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先の選定については、指名(3社)競争入札により選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模については、見積を2社より徴取し設定した。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 受益者は該当なし。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○ 費目については委託費・工事請負費として計上しており、使途については本事業にて実施された工事・監理委託費用に使用されている。